檜山教育局による地学協働活動推進のための広報

ひとづくり　や　まちづくり

ひやまをつなごう

第10号　令和5年(2023年)2月

●発　行:北海道教育庁檜山教育局
●担　当:教育支援課社会教育指導班
●電　話:0139-52-6525(直通)
●メール:hiyakyo.seigaku1@pref.hokkaido.lg.jp

1　学校の魅力ある取組の紹介（せたな町立大成中学校）

附属函館中とのリモート交流

令和４年 12 月 16 日（金）に、せたな町立大成中学校の１年生４名が、函館市の北海道教育大学附属函館中学校の１年生 25 名とオンラインによるリモート交流授業を行いました。学校を核としたＩＣＴ機器の効果的な活用と協働的な学びの支援を進めることを目的にせたな町教育委員会が主催したもので、両校は地域学習で調べた内容をグループごとに発表しました。

発表の様子

大成中学校の生徒は、せたな町大成地区の魅力として、親子熊岩、日本一危険といわれる太田神社、地域のお祭り「がっぱり海の幸フェスタ in わっためがして大成」などの観光名所や授業の一環で取り組んでいる久遠神楽について紹介しました。また、大成地区の特産品であるウニについて、北海道が日本のウニの出荷量の 57%を占めていること、大成地区では SDG s を意識した養殖を行っていることなどを発表しました。

附属函館中学校の生徒は、「函館市で街の宝になるもの」について調べたことをテーマに、函館山にある砲台のことや函館グルメ、また、近年不漁が続くイカに代わり漁獲量が増えているブリの活用について発表しました。

それぞれの発表後は活発な質疑応答が行われ、大成中学校の生徒は「遠くの学校ともオンラインでつながることができて、良い経験になりました。」と感想を述べていました。

2　各町のイベントのご紹介（上ノ国町）

令和５年　新春書初め大会

令和５年１月 11 日（水）上ノ国町スポーツセンターで、上ノ国町教育委員会が主催する新春書初め大会が行われ、町内の小中学生 22 名が参加しました。

心を込めて

参加者は、「もち」「友だち」「美しい空」など学年ごとに設定された課題文字を一筆一筆丁寧に心を込めて書き上げました。

作品は、１月 20 日～22 日までジョイ・じょぐらにて掲示され、多くの町民が鑑賞しました。

書初め大会の感想と今年の抱負

> “友”の字が上手に書けて良かった。今年はスノーボードを頑張りたい。
> 菊池　惺良さん（小3）

> 丁寧に書くことができた。今年は、一年間きれいな字を書き続けるように意識して過ごしたい。
> 坂本　ゆずなさん（小6）

> 上手に書けたと思う。小学校最後の良い思い出になった。今年は中学生になるので、成長の年にしたい。
> 太田　麟さん（小6）

入選作品

3　高校の魅力ある取組（上ノ国町）

上ノ国町学校運営協議会（コミュニティ・スクール）設立に係る準備会

令和５年１月 17 日（火）に、上ノ国町ジョイ・じょぐらで「上ノ国町学校運営協議会設立に係る準備会」が開催され、学校運営協議会の委員予定者を含む 26 名が参加しました。

令和５年度から上ノ国町の小中高でコミュニティ・スクールを導入する予定であることから、制度についての理解を深めるために町教育委員会と高校が連携して開催したものです。参加者は、檜山教育局社会教育指導班主査から制度についての説明を受けた後、ミニ熟議体験として「上ノ国高校の生徒に身に付けさせたい力」について話し合いを行いました。

熟議の様子

参加者は、ミニ熟議体験を通して「郷土愛を持った生徒に育ってほしい」「コミュニケーション能力を高めてほしい」など、それぞれの思いを語り、それぞれの立場でどんなことができるか真剣に考え、体験とは思えぬほど充実した内容となりました。

コミュニティ・スクール（CS）とは

学校・保護者・地域のそれぞれの思いを反映させた学校運営を行う仕組みで、保護者や地域の代表、学識経験者などで組織する「学校運営協議会」を設置した学校のことをいいます。

学校・保護者・地域で、どんな子どもを育てていくか共通の目標やビジョンを共有し、連携して子どもの豊かな成長を支えます。

熟議とは

学校や保護者・地域住民が「熟慮」と「議論」を重ねながら課題解決をめざす対話のことをいいます。

活発な議論により、的確に多くの人の意見を反映することができます。

4　子どもの心に響く道徳教育推進事業

長野パラリンピック出場選手による講話

令和４年 12 月 15 日（木）にせたな町立久遠小学校、16 日（金）に厚沢部町立館小学校にてパラリンピックアルペンスキー日本代表を経験し、パラサイクリング等でも活躍された田中哲也さんが講話を行いました。

講話の様子

館小学校では５・６年生に向けて『自信の可能性』と題し、多様な国で体験した出来事や「努力」「感謝」「素直になること」の３つの言葉を大切にしていることが語られました。

田中さんは子どもたちに対し、失敗を失敗として考えるのではなく、良い経験をしたと前向きに捉えて、いろいろな経験を重ねていくことが大切であると話しました。

大学時代、事故により右脚を失った田中さん。しかし、経験を重ねることで自分にできることを次々と見つけ、それが自信に繋がったといいます。ついには事故直後は不可能に思えた夢を実現し「あきらめなければ夢は叶う」という言葉を体現した田中さんの話に子どもたちは真剣に耳を傾けていました。

◇ ◆ ◇ 檜山教育局からのお知らせ ◆ ◇ ◆

○　アンケートの協力について

「ひやまをつなごう」をより充実した内容とするため、アンケートにご協力ください。今号の感想などの他、皆様からの情報提供もこちらから入力できます。アンケートの回答は２～３分ほどで終わります。お気軽にアクセスください！

情報提供・アンケート
個人配信登録はこちらから！

※ＱＲコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です